

## 角田市議会一般会議報告書

平成 28 年 2 月 18 日

角田市議会

議長 柄 目 孝 治 殿

産業建設常任委員会

委員長 谷 津 睦 夫

開催日時	平成 28 年 1 月 15 日 (金) 14 時 00 分～ 16 時 20 分
開催場所	角田市役所 301 会議室
会議の議題	角田市の農業ビジョンについて (1) 未来を拓く角田の農業について (2) 賑わいの交流拠点施設整備実施計画 (案) について (次 第 : 別紙 1 のとおり)
議会で対応した委員会名	産業建設常任委員会
出席委員名	谷津睦夫委員長、武田暁副委員長、八島利美委員、渡邊誠委員、湯村勇委員、小島正委員 (出席者 : 別紙 2 のとおり)
参加関係団体等名	角田市農業経営者会議 (出席者 : 別紙 3 のとおり)
参加団体等の人数	12 人
傍聴人数	24 人
発言者名	主 な 発 言 要 旨 等
	<p>■ 議題の趣旨説明等</p> <p>(1) 未来を拓く角田の農業について (説明・質疑)</p> <p>伊藤会長より議題の趣旨説明後、角田市農業経営者会議事務局の大沼担当より配付資料である「認定農業者年代別及び後継者の有無」について説明を行った。</p>

伊藤 稔会長

角田市の農業において人的資本が一番重要であるが認定農業者のおおよそ65歳前後がもっとも多い。10年後には75歳になり、年金受給者となる訳だが、その時に誰が農作業に従事するのかということについて非常に危機感を感じている。

市内3,400町歩の水田のうち2,100町歩程度が作付けされている。減反政策の中で、このような形になっているが、かつて10%程度の減反だった頃の角田市の米の売り上げは45億円ほどあったと記憶している。

農業粗生産額全体で100億円に近い売り上げがあり、地域の中で100億円近いお金に商店街も含めて関与した経過がある。それが今や半分以下の額となり地域と農業の関わりが変化しているのが現状である。

角田市は昭和40年代に第1次構造改善事業として東北で最も早く近代施設化を達成し、トラクターのロータリーに取り付ける爪の開発のみならず構造改善といったソフト事業には全国一早く着手するなど、当時は農協と角田市の農林課が共に協力しあいながら角田市の農政を支えてきた時代があった。

農協の合併後は阿武隈農業振興公社を設立し、農民の集う場所を確保したが、昨秋より事務局長が不在となるなどシンクタンクとしての機能が十分果たされているとは言えず、公社としてのあり方に疑問を持っている。

このような中で角田市の農業経営者は、自分の農業経営ばかりでなく角田という市そのもの、社会そのものに対しての将来を危惧している。

米のみならず野菜の価格が大幅に下落している背景を受け、労働者の不足や栽培面積を増やせないという問題に直面しており、小規模農家は太刀打ち出来ない状況にある。「まち・ひと・しごと創生総合戦略」の中で角田市としての農業ビジョンを策定することで、雇用の確保やリーズナブルな価格で栄養価の高い物を提供できる。角田市には全国的にも珍しいほどノウハウを持つ農業従事者がいる。それを資産と考え策定してほしい。

労働力確保については、余剰労力を活用してはどうか。女性を中心に午前10時から午後3時までの間に働ける方は多い。この方々を活用した農業人材バンクを立ち上げることも有効であると思う。

また畑も含めた4,500町歩の農地を現在の認定農業者で維持していくことは不可能であり、維持してよいのかという疑

<p>岸浪俊一監事</p>	<p>問も残る。この問題に対しては、全国で行われているように、現状の農業経営を他の人が引き継ぐという第三者継承という方策で対応してはどうか。仙台市でもトレーニングセンターを設置している。角田市においては農家の方がその役割を担うことも出来る。</p> <p>分散錯圃によるコスト増大も計り知れないほどである。主力の農業従事者は50～60代であるが、地域ではまだ若手とみなされる「村の論理」もあり、努力が実りづらい。第三者なり行政が介入することで大幅な改善が見込まれると感じる。</p> <p>会長の説明に補足したい。今回提示した資料の内容は角田市認定農業者であり、角田市の農業者ではない。</p> <p>角田市の認定農業者は207人いる。以前は65歳までが認定農業者とされていたが、現在年齢制限はなく70代の認定農業者もいる。</p> <p>かつて農業振興協議会という組織があり、角田市、角田市農業協同組合、角田土地改良区、隈東土地改良区、農業委員会、共済組合、森林組合の7組織で構成されていた。角田農業改良普及センターはオブザーバーとして参加し、日々角田の農業はどうあるべきかを協議、推進したことで「角田に農業を学べ」と全国的に評された。そして現在は角田市農業振興公社に引き継がれ、農地集積率は70%を超え全国一となった。更なる集積率向上を目指すことは非常にハードルが高く、角田市の農業ビジョンとの関係性が重要になってくる。</p> <p>農業を取り巻く課題は様々であり個人で解決出来ない事もある。これは水で繋がり、田んぼで繋がる農業の宿命であり、農業者のみならず広く市民と共に課題を解決すべきと考える。</p>
<p>谷津委員長</p>	<p><b>(2) 賑わいの交流拠点施設整備実施計画（案）について</b> <b>(説明・質疑)</b></p> <p>賑わいの交流拠点施設整備は第5次長期総合計画と「まち・ひと・しごと創生総合戦略」に盛り込まれているが、議会に対して計画の説明があっただけで予算等は議決していない。このような中で、皆さんが道の駅に対してどのようなご意見をお持ちか伺いたい。</p> <p>※これまでの経過概要について八巻道の駅整備室長から説明。その後確認の質疑。</p>
<p>岸浪俊一監事</p>	<p>今回の実施計画案は、昨年11月16日の市議会全員協議会にて出された要望を反映した案を配付する事が本来ではない</p>

八巻道の駅整備室長	か。 平成27年の前半に頂いた意見要望を反映したものを配付している。
谷津委員長	<p>昨年2月に基本計画の説明が角田市議会全員協議会であり、当初予算に土地購入等の予算が計上されたが、①将来の財政見通し、②に地域産業との関連性、③施設自体の管理運営への不安の3点の理由により今年の当初予算においては一度取り下げとなった。</p> <p>その後昨年11月16日の市議会全員協議会で、今年の議会報告会で市民の皆様から頂いた要望を盛り込んで現在の案が示されている。しかしこれを議会として納得しているかどうかは別問題であり、2月議会で審議を行う予定である。</p>
佐藤良一会員	75万人という年間集客数の根拠は何か。
八巻道の駅整備室長	平成23年10月の平日、休日其々1日ずつ交通量調査を行った。その交通量の間値から集客数を出している。
岸浪俊一監事	事業費にかかる予定財源の中に地方創生の補助金は入っているのか。また調査設計費の1億2,247万円はこれからかかるものなのか。
八巻道の駅整備室長	地方創生の補助金ではない。道の駅の部分は国土交通省から、農産物直売所については農林水産省からの補助金である。調査設計費はそのほとんどがこれからかかる。
加藤 隆会員	収支予測を資料に載せているが、この数値は道の駅を成功させた経験のあるコンサルタントや第三者の監査を受けた数値なのか。またコンサルタントに依頼しているとすれば経費はどの程度か。
八巻道の駅整備室長	コンサルタントに委託し出てきた数値を市職員で見直した。また国土交通省や県の職員、金融機関、農業や商工業関係の委員で組織する賑わいの交流拠点施設整備検討委員会で検討した。コンサルタントの委託料はおよそ350万円である。
遠藤裕一監事	用地取得についての確約は済んでいるのか。

八巻道の駅整備室長	土地所有者へ計画の説明をしている段階であり、確約は得ていない。計画にゴーサインが出た段階で交渉となる。
<p>渡邊 誠委員</p> <p>伊藤 稔会長</p> <p>岸浪俊一監事</p> <p>遠藤裕一監事</p> <p>加藤 隆会員</p> <p>伊藤稔会長</p>	<p><b>■ 意見交換</b></p> <p><b>(1) 角田市の農業ビジョンについて（意見交換）</b></p> <p>農地集積が進み、角田市では73%の集積率となったが連たん化していない。従前の集積率60%の部分についての分散錯圃に国の諸施策がない。</p> <p>角田市の農地集積率は仙南においても突出して高い数値である。集積には耕作者集積協力金という制度があり活用を促す為に市職員が各自治センターで説明会を開催している。しかし、意欲の高い方は足を運ぶが、そうでない方は周知も出来ない。行政の情報を知らない方が多くいる為、角田市の農政の方向性はどうなのかとを感じる部分である。</p> <p>現在は、集積率60%部分も助成を受ける事が出来る。</p> <p>農業経営者会議を立上げ25年程経過している。日本の農業はどうなり、角田市はどうするのかというテーマの下で農業を営んできた。国の政策をしっかりと見据えて、良いものであれば先取りしていくという基本姿勢だけは確認したい。</p> <p>現場からの話しとしては、健土農場は100haの経営面積となったが、これ以上の面積を持つ法人は多くなった。500haを持つところもある。集積が進んではいるが高齢化と面的集積がなされていない。耕作地と耕作地の間に他の耕作者の土地があるなど、集積とは言えない。更に集積については域内の利害関係が絡む。行政や土地改良区が主導して進めて欲しい。</p> <p>角田市のふるさと納税が好調のようだ。これを財源として老朽化している土地改良施設の復旧に充てれば良い。また、農業者は消費者と直接結びつきたい思いがある。これを利用して新しい角田市の方針を打ち出して欲しい。</p> <p>今、農業を産業として考えた場合、かつてのような世襲制の時代のように、誰でも農業経営者になれるという時代ではない。</p> <p>やはり、経営能力の長けた人が一つの農場を作り、その中</p>

	<p>で雇用を確保していきながら、農業を営んでいくというのが正しい姿だと思う。農業だけでなく、地域社会、農業社会を学べるトレーニングセンターを仙台市は開講しているし、角田市では農家の方々が同様の事を行える素地がある。農業を産業としてどう位置付けていくのか。産業として確実に育てて行かなければ農地が単なる草原になる。我々も高齢化が進み、トレーニングを行える時間は多くないため、早急に進めて欲しい。</p> <p>また、農業振興公社の事務局長が不在であることが大きな問題であり機能していない。理事長は市長であるが、この問題をどう捉えているのか。</p>
<p>庄司信一会員</p>	<p><b>(2) 賑わいの交流拠点施設整備実施計画（案）についての意見交換</b></p> <p>結論から言って難しい計画であり、反対である。</p> <p>年末に配付されたこの計画案の資料は、ほとんどの市民は読んでない、理解していないと思う。市当局、議会も含めて、この資料を配付したから説明責任を果たしたとは思わないで欲しい。一方的な説明であると感じる。第三セクターで運営するとのことだが、総合体育館や田園ホールとは異質の経営であることを認識すべき。出店、出品する農業者の方々や、商工会への説明をしているとの事だが、各団体長のみに行ってはいないか。これだけの事業費をかけるのであれば成功して欲しいが、市当局、議会がもっと丁寧に説明すべき。</p>
<p>遠藤裕一監事</p>	<p>どこにでもある道の駅と変わらない。視点を変えて、陸上競技場や野球場の利用者をターゲットにすることや、ドッグランなどの施設を整え固定客を掴むことも必要である。また、出品する方の人材育成も行わなければならない。商工会の意見も取り入れ、角田ブランドをどう売り出すかの考えも必要。他と同じような直売所を備える道の駅ではリピーターを掴むことは難しい。</p>
<p>岸浪俊一監事</p>	<p>最初のワークショップのメンバーであったが、1年で辞めさせられた。当初の目的は、「交流・連携や移住・定住の促進を図ることを目的とした賑わいの交流拠点の整備を図る」であったが、いつしか農産物直売所をつくるのが目的となった。農産物直売所ではなく、交流拠点は必要だ。</p>
<p>伊藤 稔会長</p>	<p>市民皆が楽しめる仕掛け、意見の求め方が必要だ。市民</p>

谷津委員長	<p>が望む施設をつくることが望まれる。山元インターチェンジから車で5分という地の利をいかに経済行為へ結びつけるかの視点が無い。農業も含めた産業のコアとして世界へ発信出来る施設であるべき。その為のツールや具体案をまだ議論すべき余地がある。</p> <p>以上をもって終了させていただきますが、今日いただいたご意見は、議会として精査させていただき、市政に反映できるように努力してまいります。</p> <p>なお、今日の報告書については、当委員会の武田副委員長にまとめていただき、ホームページ等で公表させていただきますのでご了承願います。</p>
-------	---

# 角 田 市 議 会 一 般 会 議

日 時 平成 2 8 年 1 月 1 5 日(金)  
午後 2 時  
場 所 角田市役所 3 0 1 会議室

## 次 第

### 1 開 会 挨拶

議長 柄目孝治

### 2 議題の趣旨説明等

#### ◆角田市の農業ビジョンについて

##### (1) 未来を拓く角田の農業について（説明・質疑）

説明者：会長 伊藤 稔、監事 岸浪 俊一、事務局 大沼 寿宏

質疑者：なし

##### (2) 賑わいの交流拠点施設整備実施計画（案）について（説明・質疑）

説明者：委員長 谷津睦夫、道の駅整備室長 八巻裕一

質疑者：4 人

### 3 意 見 交 換

#### ◆角田市の農業ビジョンについて

##### (1) 未来を拓く角田の農業について

##### (2) 賑わいの交流拠点施設整備実施計画（案）について

### 4 閉 会 挨拶

副議長 小島 正



角田市議会一般会議 出席者名簿  
(角田市議会・角田市)

## 角田市議会

No.	氏 名	役 職 名
1	柄 目 孝 治 (つかのめ こうじ)	議長
2	谷 津 睦 夫 (やつ むつお)	産業建設常任委員会 委員長 ※ 司会者
3	武 田 暁 (たけだ あきら)	産業建設常任委員会 副委員長 ※ 記録者
4	小 島 正 (おじま ただし)	産業建設常任委員会 委員 副議長
5	八 島 利 美 (やしま としみ)	産業建設常任委員会 委員
6	渡 邊 誠 (わたなべ まこと)	産業建設常任委員会 委員
7	湯 村 勇 (ゆのむら いさみ)	産業建設常任委員会 委員

## 角田市

No.	氏 名	役 職 名
1	齋 藤 誠 一 (さいとう せいいち)	産業建設部長 (兼) 農政課長
2	佐 藤 文 美 (さとう ふみよし)	産業建設部理事 (道の駅整備担当)
3	八 巻 裕 一 (やまき ゆういち)	道の駅整備室 室長
4	中 畑 義 巳 (なかはた よしみ)	商工観光課 課長
5	小 湊 洋 司 (こみなと ひろし)	道の駅整備室 参事 (兼) 室長補佐
6	小 川 一 召 (おがわ かずよし)	農政課 課長補佐

## 角田市議会事務局

No.	氏 名	役 職 名
1	大 井 幸 雄 (おおい さちお)	議会事務局 理事 (兼) 事務局長
2	山 本 浩 司 (やまもと こうじ)	議会事務局 参事 (兼) 事務局次長
3	目 黒 知 子 (めぐろ ともこ)	議会事務局 議事係長

角田市議会一般会議 出席者名簿  
(角田市農業経営者会議)

角田市議会

No.	氏 名	役職名	地 区	営 農 類 型
1	伊 藤 稔	会 長	藤尾	トマト+稲作
2	森 谷 茂	副会長	北郷	肉用牛+稲作
3	三 浦 徹	副会長	西根	野菜
4	佐 藤 清彦	会 計	藤尾	肉用牛+椎茸+稲作
5	遠 藤 裕一	監 事	西根	稲作
6	岸 浪 俊一	監 事	角田	花き+果樹+稲作
7	佐 藤 良一	会 員	藤尾	施設園芸+露地園芸+稲作
8	庄 司 信一	会 員	北郷	稲作+大麦+飼料米
9	白 戸 康一	会 員	北郷	稲作+大豆+麦
10	水 戸 康夫	会 員	北郷	稲作+施設野菜
11	加 藤 隆	会 員	桜	稲作+大豆+露地野菜
12	大 沼 寿宏	事務局		

※ 営農類型は認定農業者認定時のもの（遠藤裕一氏については角田健土農場）